

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		31,718	t-CO <sub>2</sub>
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		31,718

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）			%		%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）					%		%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	0.05372	t-CO <sub>2</sub> / GJ	0.05345	t-CO <sub>2</sub> / GJ	0.05235	t-CO <sub>2</sub> / GJ	0.05112	t-CO <sub>2</sub> / GJ	0.05136	t-CO <sub>2</sub> / GJ
削減率（対基準年度）			0.5 %		2.6 %		4.8 %		4.4 %	
原単位あたりのみなし排出量						t-CO <sub>2</sub> / GJ		t-CO <sub>2</sub> / GJ		t-CO <sub>2</sub> / GJ
削減率（対基準年度）					%		%		%	

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和5年度から、購入蒸気が停止したことから、燃料の調達費は上昇したが、必要な蒸気製造に限ることで、エネルギー消費効率は改善した。結果、令和5年度実績同様に令和6年度実績も同水準で削減を行うことができた。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理/エネルギー使用量等の把握及び管理	省エネ運転推進検討会議を定期的を開催し、エネルギーの使用状況の把握、運転方法の分析、改善を行う	年に4回以上の開催を通じて、省エネ運転の推進を図る	省エネ運転推進検討会議を7回開催し、使用状況の把握、運転方法の改善について検討を行った
省エネルギー・省資源の推進/設備運転の効率化	中間期における冷凍機の冷水出口温度をあげて運転する	中間期に設定温度を上げて運転する	昨年実施と同様の運用を継続し、効率の向上を図った。
省エネルギー・省資源の推進/照明	照明のLED化を推進する	R4年にプラント内のLED化工事を行い、照明の省エネルギー化を推進する	R4に実施済。また、未実施箇所においてR6も改修工事を実施した。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO <sub>2</sub>
-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍機において、高効率機器を優先的に稼働させ、消費エネルギー低減を図った。</li> <li>・ボイラ運用において、昇圧運転と合わせて連続稼働させることにより、より効率的な運用に変更し、消費エネルギー低減を図った。</li> </ul>
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

会議及び打合せ等による資料は、投影を基本としペーパーレス化を促進させた。
--------------------------------------